

スポーツボランティア プログラム

東京都障害者スポーツ大会
「スポーツの集い」

2016/9/14



会場となった、東京体育館メインアリーナ

「東京都障害者スポーツ大会」の重度知的障がい者の競技会「スポーツの集い」が開催され、選手はもちろん、そのご家族や施設の方、応援に来た方まで、非常に多くの方が詰めかけ、会場は熱気に包まれていました。スポーツボランティアプログラム最初の活動として、本学からは、11名の学生が運営ボランティアとして参加しました。



～活動内容～

本学の学生は、フロアー係と編成誘導係に分かれて活動しました。フロアー係は、選手の入退場や競技位置までの誘導、安全確保や応援など、フロアー上における基本的な運営に携わりました。競技の間で選手たちと交流する時間もあり、学生たちはメリハリをもって取り組んでいました。編成誘導係は、写真のようなプラカードを持って選手の整列や競技待機場所までの誘導を担当した他、同じボランティアである中学生の活動のサポートも行いました。

障がいのある方とふれあうのが初めての学生も多かった中、役割をこなすだけでなく、コミュニケーションをとったり、応援をしたりして、積極的に大会を盛り上げようとしていました。

～参加した学生の声～

- ・「なかなか障がいのある方に声をかけられず、目が合ったら微笑み、話しかけられて初めて口を開くという感じだったので、もっと積極的に話しかけ交流したいと思います。」
- ・「障がいのある方がどのような援助を求めているのか、どれくらいの程度でお手伝いすればいいのか未知なところもあるので、事前にしっかりと調べ、少しでもお手伝いできればいいなと思います。」
- ・「障がいのある方々のイベントに初めて参加して、なかなか緊張がほぐれず、動作が堅くなったり遅れたりしてしまうことが何度かありました。たとえ障害があってもあんなにスポーツを楽しむことが出来るし参加者の大勢が快活だったことを振り返れば、むやみに肩肘を張らなくてよかったなと思います。今後は、ボランティアの経験を積み重ねていくとともに、様々な方々とのふれあいを通じて心の壁をなくしていったりボランティアメンバー同士の交流を深めチームワークを発揮できるようにしたりしていくこと、ボランティア活動外でも心がけていけるようになることも大事な事かなと思いました。」
- ・今回は事故などイレギュラーな事態は起きませんでしたでしたが、安全に、そして円滑に大会を運営しなければならぬため、そのためにはスタッフ同士の連携や柔軟な対応が重要であり、今回の活動では、そのような対応方法を学びたいと思いました。